

第2回瑞穂町協働のまちづくり推進委員会

- 1 日 時 令和元年8月2日（金曜日） 18時30分から20時00分
- 2 場 所 本庁舎 1階職員休憩室
- 3 出席者 （委員）
石川かず子、石川淳、井上祐輔、小松揚明、小山裕紀子、田中幸男、
中沢清、豆田和子
（事務局）
栗原康弘（地域課地域係長）、堂垣祐介（地域課地域係主任）
- 4 議 題 1 協働フォーラムについて
2 その他
- 5 配布資料 1 次第
2 協働フォーラム2020（案）
3 協働状況調査
4 平成29年度NPO等支援・協働に関する状況調査（抜粋）

6 議題1 協働フォーラムについて

資料の確認及び説明（資料1）

資料1により、今年度のフォーラム（案）を示し、開催するかどうかを決定します。また、フォーラムの内容を今までと同様、もしくは何かをプラスアルファするのか、全く別のやり方でやるのか等、フォーラム構成について協議する。

フォーラム周知を効率的に行うために、誰をターゲットとし、どのような方法で行うか検討し、集客アップにつながる手段を考える。

フォーラムについて

・今回、他自治体の協働の状況（イベントや補助金の有無等）を調査したので、それを踏まえた上で、フォーラムを少し変えていくことも考える必要がある。ただ、フォーラムを継続することが最も重要であり、必ずしも前回のフォーラムの構成を変えなければいけないわけではない。周知方法を工夫し、集客アップを目指すべきである。

・今年度もけやき館でフォーラムを開催する。開催日や構成については、次回委員会で決めることとした。また、けやき館のイベントを考慮した上で、開催時期を決定する。

・けやき館以外の候補として、ふれあいセンターやコミセンがあったが、下記の理由により、けやき館での開催となった。

ふれあいセンター：ボランティア団体向けにフォーラムを開催するのであれば、ふれあいセンターが適しているが、ボランティア団体の意向を聞いておらず、推進委員会と団体の関係性を築きつつ、将来的にはボランティアと協働が繋がったイベントの規模にしていきたい。

今は時期尚早であるため、ボランティア団体と交流を図る必要がある。

コミセン：コミセンで開催した場合、地元の方向けとなってしまう。また、コミセン祭りとコラボするとなると、事前の準備委員会から参加する必要がある、さらに地元町内会との調整も必要であることから今年度の開催は難しい。

- ・ボランティアセンターとコラボし、ボランティア団体をフォーラムに取り込むために、まずは10月6日に開催されるボランティア交流会に推進委員会として参加できるかどうかを、小山副委員長がボランティア交流会企画委員会に諮る。その結果次第で、事務局と推進委員は、協働の説明及び事例発表を行う。

- ・フォーラム構成のひとつの案として、事例発表が終わった後に、その活動に参加した方が感想や意見を発表し、最後に再び発表者が総括などを述べるというような形式がある。実際に活動に参加した方の話を聞くことで、聴衆も活動に参加してみようとなりやすく、また、多角的に活動を知ることができ、より効果的に協働のメリットを伝えられる。

- ・事例発表の変化を知れるということから、同じ委員が毎年発表することは良いが、ひとつでも新しい事例があると良い。事例発表については、推進委員に限らず、町内で活動している団体からの活動報告でも面白いのではないか。

議題2 その他

情報提供について

- ・資料2として、他自治体の状況を調べ、今の町の状況と比較した。他自治体も協働のガイドラインや指針や基本計画といったようにルール作りを行っていた。
- ・協働フォーラムは独自性がある。イベントなどを特に行っていない自治体やイベントを行っていても町内会長向けのため、不特定多数をターゲットとした協働に関するイベントはとても良い企画だと考えている。
- ・協働事業提案件数について、他自治体と比べて、大幅に少ないわけではない。件数だけ見るのではなく、継続して協働を周知することが重要である。

委員の活動状況報告

- ・ひまわり畑は、お誘いするタイミングが難しくて、1週間前ぐらいにフェイスブックで告知している。前回来てくれた人にはメールをしている。
- ・平地林は、毎月第二火曜日と奇数月の第三日曜日に活動していて、次の日曜イベントは9月15日にあり、作業というよりかは、子どもたちが来たりして遊びながらやっている。

次回委員会は令和元年9月9日18時30分から、本庁舎1階会議室で開催予定。